

★いにしえ倶楽部を開催しました！

●「ここまでわかった来島の原始古代！ -発掘調査最前線-」

11月28日に、飯南町来島交流センターにて、いにしえ倶楽部連続講座を開催しました。会場には飯南町にお住まいの皆さんを中心に約50名の聴講者が来場され、町内遺跡の発掘調査についての発表を熱心に受講されました。



パンフレット紹介 シリーズしまねの遺跡パンフレット11『史跡出雲国府』

●最新刊です！

シリーズ島根の遺跡では、埋文Cいちおしの遺跡を分かり易くまとめて紹介しています。今回は、史跡指定50周年を迎えた松江市『出雲国府跡』を取り上げ、おもに国府の最重要エリアである政庁の発掘調査成果について解説しています。パンフレットは、埋文Cで無料配布しているほか、県内の図書館・文化財関係施設にも置いてありますので、ぜひご覧ください。

(問い合わせ先：0852-36-8608)



行ってみたいしまねの遺跡

史跡久喜銀山跡

広島県境に近い邑南町久喜・大林・岩屋地区にはかつて天領として栄えた銀と鉛を産出する鉱山遺跡が点在し、1500カ所を超す採掘跡や製錬所跡が確認されています。

製錬所跡近くにはカラミと呼ばれる鉱滓が堆積する景観が広がり、数千人もの人々が働いていた往時に思いを馳せることができます。

久喜銀山の本格的な開発は毛利元就により始められたと考えられています。最盛期は戦国時代で江戸時代は天領として大森代官所の支配を受けました。

地域の人々が間歩の整備など保全活動や見学の際のボランティアガイドを行っています。



史跡久喜銀山跡 2号間歩

問い合わせ先：邑南町生涯学習課 0855-83-1127

わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！ 島根県の埋蔵文化財情報誌

ド キ 土 器

まいぶん web版 No.1 2022年春



江戸時代の宍道湖護岸の石垣

まつえじょう かまち いせきしらかた

①松江城下町遺跡白潟1A区(松江市魚町)

斐伊川水系大橋川河川改修に伴い、国土交通省から委託を受け、松江市白潟地区で発掘調査をしました。白潟地区は、江戸時代には松江の経済活動の中心地で、絵図面などから多数の町家が建ち並んでいたことがわかります。今回の調査では、江戸時代の宍道湖護岸の石垣がなんと12基も発見され、5時期以上にわたって湖を埋め立てて、屋敷地を拡張していた様子が確認できました。石垣の高さは最大1.8mで、基底部の標高は-0.3mと宍道湖水面よりも低くなっています。石材は中西海岸で採れた大海崎石や大根島で採れた島石が主に用いられています。舟入や湖岸へと降りる石段を伴う部分もあることから、この地が水運と密接に関わっていたことがうかがわれます。



島根県の埋蔵文化財情報誌

ド キ 土 器

まいぶん web版 2022年春号

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 松江市打出町33
TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025
E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



※遺跡位置図は国土地理院発行1/25,000地形図を使用

島根県の最新発掘情報

令和3年度 発掘調査ガイド



令和3年度 発掘調査箇所位置図

●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようにお願いします。

■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

須恵器にへら描き、線刻が

しも わだ いせき

②下和田遺跡(江津市後地町)

国土交通省の委託を受けて、一般国道9号(福光浅利道路)改築事業に伴う下和田遺跡の発掘調査を令和3年7月から12月まで実施しました。調査面積は1,300㎡でした。

下和田遺跡は、江津市後地町に所在し、県指定史跡波来浜遺跡の南東100mにあり、狭い平野に面した谷の北西斜面(標高7~8m)に営まれた7世紀末から9世紀初め頃にかけての集落跡です。

掘立柱建物など遺構からの出土遺物は少なかったものの、谷底の遺物包含層からは、コンテナ60箱分の遺物が出土しました。須恵器や土師器、土製品が多く出土しました。

須恵器の坏や蓋の中には、へら書きがあり、「×」、二重の「×」など記号が13点、「欠」と推測できる文字が1点あります。また、須恵器高坏や壺には線刻されたものがあり、蓮の花など絵画的な図柄が見られます。



下和田遺跡(上空から)



遺跡の位置



「欠」のへら書きのある須恵器



須恵器に線刻された蓮の花

丘陵の土地の利用を把握

たか まる いせき

③高丸遺跡(江津市黒松町)

高丸遺跡は丘陵の中ほどにある平坦な部分と斜面にあります。調査前の標高は25~33mで、日本海がわずかに見えるところです。

丘陵中ほどの平坦なところから調査を開始し、斜面へ移動しました。斜面は後の時代の畑などの造成により元々の地形が大きく変わっているところが多く、顕著な遺構は見つかりませんでした。斜面には浅い落ち込みが斜面の上から下へと伸びていました。落ち込みの上の方からは平安時代の須恵器や土師器が、下の方からは弥生時代後期~古墳時代前期の土器が出土しました。

今年度の調査では弥生土器や土師器、須恵器が平坦なところから斜面にかけて出土しました。弥生時代後期から現在に至るまで、断続的に土地が利用されていたことがうかがえます。なお、高丸遺跡の調査は来年度も続いて行う予定です。



遺跡の全景



遺跡の位置

石見の茶の湯文化と貿易陶磁

もり はらし もの はらい せき

④森原下ノ原遺跡4区(江津市松川町)

森原下ノ原遺跡は中国地方最大の河川である江の川右岸の自然堤防上に位置しています。令和元年度から国土交通省の委託を受け、江の川河川改修事業に伴う発掘調査を行っています。これまでの調査では、縄文時代から江戸時代にかけての5,000年以上にわたる生活の跡が確認され、長期にわたって交流・交易の拠点として機能し続けたことがわかりました。令和3年度の調査では、度重なる江の川の氾濫によって調査区の大部分が削られていましたが、中世の陶磁器をはじめとする貴重品が多数出土しました。

中でも注目されるのが、完形の状態では県内初の発見となった灰被天目(はいかつぎてんもく)です。天目とは、中国で茶を飲む碗として普及したもので、森原下ノ原遺跡出土のものは14世紀末から15世紀初頭(明代)に中国の福建省でつくられたものと考えられます。

江津では現在でも茶道が盛んに行われており、10月に開催した遺物展示会では約150人の方に見学をいただきました。今に伝わるお茶の源流が森原下ノ原遺跡にあったのかもしれない。



15~16世紀の輸入陶磁器



完形で出土した灰被天目



遺跡の位置

広瀬地域で初めて確認された弥生時代のムラ

みや おさん いせき

⑤宮尾Ⅲ遺跡(安来市広瀬町)

宮尾Ⅲ遺跡は、国道432号菅原広瀬バイパス建設に先立ち令和3年5月~7月に調査を行いました。遺跡は広瀬町中心部および飯梨川下流域を一望できる山麓に位置します。弥生時代後期後半~終末の竪穴建物3棟のほか多くの柱穴が見つかり、掘立柱建物などもあったと考えられます。このほか、狩猟に用いられた縄文時代の落とし穴も発見しました。広瀬地域では、これまでも弥生時代の土器や石器は出土していましたが、竪穴建物や掘立柱建物などは確認されておらず、この時期のムラが見つかったのは今回の調査が初めてです。弥生時代、広瀬地域に暮らした人々の生活を物語る貴重な発見となりました。



遺跡の位置



A区完掘状況



広瀬の市街地と遺跡